４・２４阪神教育闘争

記念碑を建てる会

設立集会

＜２００６年４月２３日(日)＞

＜神戸学生青年センター＞

<プ ロ グ ラ ム>

《設 立 集 会》

（15：00）

○ 開　　会

○ 呼び掛け人紹介

○ 来賓あいさつ

○ 経過および趣旨説明

○ 規約確認

○ 役員選出

○ 代表あいさつ

○ 事務連絡

（休　　憩）

○ ビデオ上映

○ 記念講演

金 慶 海 さん
「阪神教育闘争とは」

○ 質疑応答

○ 「4・24の歌」披露

○ 閉　　会

《交流会》

（17：30）

○ 開　　会

「４・２４阪神教育闘争記念碑を建てる会」設立呼びかけ文

子どもたちが自らのルーツを大切にし、母国語によって教育を受けることは普遍的な権利です。

第二次世界大戦が終結した1945年8月以降、奪われたことばを取り戻そうと、最盛期には全国に600をこえる朝鮮人学校ができ、約6万人の子どもたちが通っていました。兵庫県内では22校に6000人をこえる子どもたちが通っていました。

1948年にGHQ（日本占領連合国軍総司令部）の指令の下、日本政府が「朝鮮人学校閉鎖令」を発令し、日本全国の朝鮮人学校を閉鎖しようとした事に対して民族教育を守ろうとした闘いが全国的にとりくまれました。

兵庫県･神戸市でも「閉鎖令」が出されましたが、朝鮮人と県･市側との交渉の結果、1948年4月24日に撤回されました。この闘いには朝鮮人と日本人が立ち上がりました。その後、幾多の試練がありましたが、このことは在日朝鮮人の民族的尊厳を守った歴史的な1ページとなりました。この闘いが「４・２４阪神教育闘争」といわれています。

今日、国際社会では「子どもの権利条約」で、子どもたちの民族教育を保障しています。日本もこの条約を批准しました。

2008年に60周年を迎えるにあたって、「４・２４」の闘いの歴史を記念し、多民族共生教育の発展を願い「記念碑」を建立したいと思います。

この会は上記の趣旨に賛同される方で、国籍・政党等は一切問わず、個人・団体が加入できるものにしたいと思っています。多くの方々の賛同・参加をお待ちします。

「４・２４阪神教育闘争記念碑を建てる会」　2006年３月１日　呼びかけ人一同

代表 家　正治（姫路獨協大学教授）
孫　敏男（兵庫在日外国人人権協会代表）
金　信鏞（神戸在日コリアン保護者の会代表）
林　同春（兵庫県外国人学校協議会代表）
方　政雄（兵庫県立湊川高校教員）
玉田　勝郎（兵庫県在日外国人教育研究協議会代表）
田治米　政美（兵庫県教職員組合執行委員長）
小島　修二（自治労兵庫県本部執行委員長）
森木　和美（アジア女性自立プロジェクト代表）
馬場　功（神戸女子大学教授）
山中　速人（関西学院大学教授）

金　孝（西神戸韓国学園理事長）
徐　根植（兵庫朝鮮関係研究会代表）
申　点粉（兵庫県在日外国人保護者の会代表）
梁　英子（弁護士）
髙　龍秀（甲南大学教授）
飛田　雄一（神戸学生青年センター館長）
赤松　賢有（部落解放同盟兵庫県連合会委員長）
杉田　哲（ひょうご部落解放･人権研究所 所長）
水野　雄二（神戸YMCA総主事）
宇野田　尚哉（神戸大学助教授）
森田　勝昭（甲南女子大学教授）

2006年3月18日現在　順不同

事務局 池田　宣弘　辻本　久夫
金　徳男　金　慶海
糀谷　博　朴　昌利

「４・２４阪神教育闘争記念碑を建てる会」規約（案）

第１条（名称）
　この会は「４・２４阪神教育闘争記念碑を建てる会」と称する。

第2条（所在地）
　この会は（財）神戸学生青年センター
　（〒657-0064　神戸市灘区山田町3－1－1）に連絡先をおく。

第３条（目的）
　この会は「阪神教育闘争」の闘いの歴史を記念し、2008年4月24日をめざして「記念碑」を建立することを目的とする。

第４条（活動）
　この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
１）記念碑建立にともなう、建設地の選定、記念碑形状の検討などの活動を行う。
２）賛同人を募り、記念碑建立のための募金を行う。
３）「阪神教育闘争」に関する学習会やフィールドワークを行う。
４）上記を推進するための事務局会議を開催する。
５）その他必要と思われる活動を行う。

第５条（会員）
　会員は、本会の趣旨に賛同する個人・団体で構成し、国籍・政党等は問わない。

第６条（役員）
　本会は以下の役員をおく。
１）代表・・・1名
２）副代表・・・若干名
３）幹事・・・若干名
４）会計監査・・・若干名

第７条（総会）
　本会の最高決議機関は総会である。
１）総会は代表が召集する。
２）総会は年１回開催する。
３）総会出席者の過半数をもって決議する。
４）臨時総会は、必要があれば開催する。

第８条（幹事会）
　幹事会は代表が召集する。幹事会は役員と事務局で構成し、随時開催する。

第９条（事務局）
　事務局を設置する。事務局は、事務局長１名と会計、事務局員若干名をおく。

第１０条（会計年度）
　本会の会計年度は、4月1日より翌年の3月31日までとする。

第１１条（会計）
　個人会費および団体会費は別途定めることとする。

附　則（施行）
　この規約は、2006年4月23日より施行する。

１９４８年の４・２４阪神教育闘争とは？

４・２４阪神教育闘争記念碑を建てる会　設立集会で
神戸学生青年センター　’06．4．23(日)．　金慶海（キムキョンヘ）

１．４・２４阪神教育闘争とは？

1）1948年4月24日の在日朝鮮人側の大勝利(県知事室での交渉)

① 朝鮮学校の閉鎖命令は撤回
② 朝鮮学校の設立申請があればそれを認可
③ 現在の朝鮮学校を認可
④ 4月15日の逮捕者は釈放、本日の件は不問

→ 「４・２４（サイサ）」の由来

2）阪神教育闘争

① 神戸での４月２４日の大勝利
② 大阪での激烈な闘い

→ 「阪神」の名を付ける

大阪と神戸での朝鮮人たちの闘いの共通項は、「民族教育権利擁護」
従って、「４・２４阪神教育闘争」と名付けている。
在日社会では、「４・２４」でも通じる。

２．この闘いの原因

1）遠因は第２次世界大戦後の冷戦の産物
「東風が西風を圧倒」

2）1948年は、朝鮮が統一か分裂かの別れ時
朝鮮では、米国が進める南北分断に反対する闘い　（済州島では「４・３」闘争）

3）ＧＨＱ（連合国軍総司令部、実質は米軍司令部）が後方（日本）の安定を狙う
→　日本での朝鮮統一運動勢力を圧殺
その中心勢力は朝連（在日本朝鮮人連盟）
この団体の大衆的な基盤は朝鮮学校

3 在日朝鮮人たちの民族教育を守る闘い

1）民族教育のはじまり

'45年9月にはすでに、雨後の竹の子のように"民族教育"が始まる、"寺小屋式"で。
帰国の準備として、簡単な朝鮮式のあいさつや「가갸거겨」でも、と。
姫路の飾磨では'46年6月には全国で最初の朝鮮人中学校

2) 帰国を断念、60万人が残留。子弟教育が本格化
・故郷の南が不安定になる。一時、日本に滞在
・子供らの教育を真剣に考えはじめる。
'46年ごろから「6・3制」へと発展
・最盛期の'48年には、6万余人の生徒(児童の就学率はほぼ100%)
・朝連がこれらの朝鮮学校を運営
・教育内容を、**民主主義的民族教育**と規定する。

3) GHQが日本政府をそそのかして**朝鮮学校の閉鎖を迫る**
・1948年1月、「官学第5号　朝鮮人学校の取り扱いについて」
その要旨は
① 朝鮮人の自主教育は認めない
② 朝鮮児童は日本学校に編入
③ 朝鮮人の学校設立は認めない
④ 本年3月末で朝鮮学校は閉鎖すること
・'48年3月末までに、山口県と岡山県では、朝鮮学校閉鎖命令が撤回

4) 兵庫県と大阪府での朝鮮学校を守る闘い
△ 神戸では
・3・1独立運動記念日を期して学校を守る闘いが始まる
・4月15日事件
・米軍は神戸市内の4校の朝鮮学校の閉鎖に焦点を絞る。
口実は、借りている神戸市立小学校校舎の明け渡し
・4月23日、米軍に尻を叩かれて県と市側が4校の閉鎖を強行
しかし、**西神戸朝鮮学校だけは閉鎖できず**
・4月24日、県知事室に県と市の首脳が密議中
・この日、知事室に朝鮮人たちが押し寄せる
MP3人が出動、金昌植(キムチャンシク)、許君子(ホグンジャ)らが「撃つなら撃てっ!」
△ 大阪では
・連日のように、朝鮮学校閉鎖反対集会が
各地で。毎回、数万人が参集。
・4月26日、大手前公園で**金太一**(キムテイル)少年
(16歳)が警官に**射殺**される

4．ＧＨＱの大弾圧をはねのける

1）占領期間中の唯一の「**非常事態宣言**」

- ・「非文明的行動」とアイケルバカー米軍司令官
- ・4月24日の夜中に米軍神戸基地管内に「非常事態宣言」

　　４月２４日の約束は取り消し

　　朝鮮人狩り（二千人以上を不法逮捕）

　　朝連の各事務所を閉鎖、物品を略奪　　　＊　パンフレット参照

- ・日本全国にある朝鮮学校に閉鎖命令

2）朝鮮学校は存続する

- ・内外世論が朝鮮人たちの闘いを後押し

　日本人ら；神戸では堀川一知（神戸市会議員）

　　　　　　大阪では全逓

　　　　　　布施辰治ら

　祖国南北での声援

- ・５月５日、両者が妥結し、朝鮮学校の存続が認められる

3）軍事裁判

- ・A級(9名)、B級(12名)、C級(16名)

　1951年12月24日、A級の残りの6名が釈放

- ・1949年11月25日、朴柱範(パクチュボム)朝連兵庫県本部委員長が仮釈放、

　　　死亡。　西神戸朝鮮学校で人民葬。

5．４月２４日を永遠に記念日とする

△　朝連　第１５回　中央委員会（1948年7月　京都で開催）

- ・「この教育闘争は在日朝鮮人運動中，最も挙族的な闘争」

　従って、4月24日を**永遠に記念**する日と決めたが…。

- ・その後、金太一教育賞、朴柱範教育賞を制定、毎年表彰していたが…。

6.まとめ

二人の尊いいのちと多数の先輩たちの犠牲との引き換えに、在日朝鮮人たちの民族教育は今までつづけられている。世界に誇れる今の朝鮮学校が日本に山ほどある。

この闘いに参加した方らは、そのことを自慢し誇り逮捕されたことを勲章でももらったように語り、まわりは彼らを英雄視したたえている。

だのに、「４・２４」を記念する見える物がない！

4·24阪神教育闘争関連年表

1946年

11月20日　ＧＨＱは「在日朝鮮人の地位および取扱いについて」の指令を出す

1947年

4月12日　文部省学校教育局長は朝鮮人児童の就学義務に関する通達を出す

11月　ＧＨＱが朝鮮人学校閉鎖を指令

1948年

1月　フィリップが兵庫軍政部の教育課長に就任、県や市に朝鮮人学校閉鎖を強く働きかける

1月24日　「朝鮮人設立学校の取扱について」という文部省通牒がだされる

1月27日　朝連第13回中央委員会で学校認可問題を討議、民族教育の重要性を再確認

2月17日　兵庫県教育部長名で文部省の通牒を県の各市長、地方事務所長らに通知

3月 1日　３・１独立運動29周年記念兵庫県人民大会が開催され、4千余名が参加

3月 6日　朝連中央は教育は自主性にまかせるなど6項目の決議文を森戸文相に提出

3月23日　朝連は教育対策委員会を中央に組織、地方に下部組織を作るよう指示

3月31日　山口県で交渉の結果学校閉鎖令執行の即時中止を勝ち取る／大阪府、市当局は朝鮮人学校の明け渡しを命ずる

4月10日　兵庫県は朝連へ閉鎖命令を手交

4月15日　県庁舎からの不退去罪で70名の代表全員逮捕

4月16日　岡山県下の闘いで学校閉鎖令が解除

4月23日　西神戸、東神戸、灘の朝連初等学院に対し校舎明け渡しの強制処分を執行、西神戸を除き執行される／大阪大手前広場で学校閉鎖反対の民衆大会が開かれ警官隊の暴圧で200余名が検挙／米軍政部は朝鮮人は日本の法律に従えという内容の声明を発表

4月24日　県庁の知事室での交渉で学校閉鎖令の撤回を勝ち取る／同夜神戸基地司令官は非常事態を宣言

4月25日　朝鮮人の無差別逮捕が開始され、県下で1732名が逮捕

4月26日　大阪の大手前公園で学校閉鎖反対人民大会が開催され、解散を実力行使した警官隊に金太一少年が射殺される

5月 3日　文部省と朝連との間の交渉妥結調印

1951年

12月24日　軍事裁判被告全員が釈放される

（本国・世界の動き）

1945年

8月　日本敗戦、朝鮮解放

1946年

7月　中国;全面的内戦開始

1947年

1月　日本;ＧＨＱが「2·1ゼネスト」中止を指令

1948年

1月　米陸軍長官、「日本を反共の防波堤に」と声明

4月　(3日)朝鮮;済州島の「単独選挙反対」の闘いがパルチザン闘争へ

4月　(19日)朝鮮;平壌で南北連席会議、南北統一選挙の実施要求を決議

5月　朝鮮;南だけで単独選挙

8月　大韓民国成立

9月　朝鮮民主主義人民共和国成立

12月　中国;人民解放軍が北京解放

1949年

7月　日本;下山、三鷹事件

9月　日本;朝連と朝鮮民青が強制解散

10月　中国;中華人民共和国成立

1950年

3月　日本;日本共産党幹部追放

6月　朝鮮;朝鮮戦争勃発

朴柱範氏略歴

朴柱範先生

1885年	慶尚北道義城郡舎谷面梧上洞生誕
1931年	教会を開く（管理教＝メソジスト） 領袖となり教理説教と啓蒙運動に尽力する
1942年	阪神消費組合理事長
1945年	朝鮮人聯盟阪神支部委員長
1947年	朝鮮人聯盟兵庫県本部委員長
1948年	投獄
1949年	釈放後同年死去

1948/11/30 対訳：安桂芳(解放新聞)

獄中詩

獄裡愁多夢不成	獄にあって愁いは多く夢はなお果たせない
光風霄月照荊城	晴れわたった空の月が刑務所の建物を照らしている
山腰村在雲生突	故里の村に雲の湧き
羽口樹高日掛枝	高い木の梢に鳥が啼いて日の傾くのを想う
寧死不貧時富貴	いまはむしろ死すとも富貴をむさぼるときでない
苦生莫道世怨聲	自分は獄中の身だが憤りの声は世にあふれている
教育闘争四.二四	教育闘争の四・二四
年々歳々難忘心	年々歳々その心は忘れられることがない

金太一少年

写真＝当時、大阪府布施市内の金太一少年の自宅でいとなまれた葬儀で悲しみにくれる遺族

１９４８年４月、ＧＨＱは都内の朝鮮学校の閉鎖命令を出した。これに抗議し大阪府庁前に集まった１万５０００人の同胞に対し、日本当局は放水を浴びせ、銃撃まで加えて弾圧。結果、７０余人の同胞が負傷、１７９人が逮捕。また、１６歳の金太一少年が頭部を

写真＝神戸市湊川新開地でデモ行進する同胞たち。４９年４月

朝鮮新報社のHPより抜粋

１９４８年１月、米国の「共産主義封じ込め政策」により日本の軍事基地化が露骨になるなか、日本政府は「朝鮮人学校取扱要綱」を都道府県知事に通達した。これは朝鮮学校の設立、つまり朝鮮語による教育の実施を認めず、日本の学校で日本語の授業を受けることを強要するものであった。まさに、日本の植民地支配時代の「朝鮮教育令の復活」であり、朝鮮人を解放民族として認めないという不当な措置だった。これに対し在日同胞は各地で反対闘争にたち上がり、民族教育の実施を求めた。

4•24의 노래	4・24の歌
또다시 온다 4•24의 날	再び迎える4・24
피에 물들인 원한의 날이	血に染まった怨みの日
4천년 긴긴 민족의 말을	四千年悠久の民族の言葉
배우는 자유 빼앗던 날이	学ぶ自由　奪われたその日を
그러나 들어라 그러나 봐라	しかし聞け！しかし見よ！
우리의 머리위 새 깃발 날고	頭上になびく新しい旗
우렁찬 어린이 소리 들린다	声高らかな雄々しい子ら
모든 억압을 박차고 나가는	抑圧を蹴って進み行く
우리 어린이	雄々しい子らの
구두소리 들린다	高らかな足音を聞け
	金慶海訳・復元

1998.2.26 神戸

朝鮮学校の自主運営守った「4・24阪神教育事件」

50年記念集会、神戸と大阪で

民族教育の原点振り返る

戦後のGHQによる"朝鮮学校閉鎖令"に対し、全国的に広がった撤回闘争の中でも熾烈を極めた兵庫、大阪の「4・24」阪神教育事件から、今年で五十年。四月には、兵庫と大阪の市民グループが相次いで記念の集会を開き、民族教育の原点を振り返る。

韓国から遺族招く　神戸は4月23日

兵庫の催しは、「阪神教育闘争50周年記念神戸集会実行委員会」（呼び掛け人、徐根植・兵庫朝鮮関係研究会＝兵朝研＝代表、飛田雄一・神戸学生青年センター館長）の主催。当時、在日本朝鮮人連盟（朝連）県本部委員長だった朴柱範さんの遺族を韓国から招き、四月二十三日午後六時半から、神戸市灘区の同センターでシンポジウムを開く。

神戸では一九四八年三月、GHQの圧力下、県と市が、市立小学校校舎を借りていた朝鮮学校四校の立ち退きを命令。四月二十三日、三校が閉鎖された。在日朝鮮人らは学校存続を求めて県庁を取り囲み、同二十四日、閉鎖撤回など四項目の覚書を勝ち取った。

ところが同日深夜から翌朝にかけ、GHQ占領下で唯一の「非常事態宣言」が神戸地区に出され、朝連の事務所や朝鮮学校を閉鎖。朴柱範さんら多数の朝鮮人が逮捕された。五月三日、朝鮮人団体と文部省の間で「朝鮮学校は私立学校とする」などの調印が行われ、一応の解決をみた。

病身だった朴さんは四九年十一月、仮釈放の約四時間後に他界。多大の犠牲を払いながら、県内では朝鮮学校の自主的運営を守り通した。

今回、韓国から招かれるのは、朴さんの二女の朴再禧さん(七〇)ら四人。当時、神戸にいた再禧さんは、父の遺骨と共に母・金慎淳さん（故人）と帰郷した。昨年十月、呼び掛け人の飛田さんが、韓国に再禧さんを訪ね、来日が実現した。

闘争当時、阪神朝鮮初級学校の運営に携わり、朴さんの直接指導を受けた元朝鮮総連西宮支部委員長の徐元洙さん(七三)は「朴さんの遺族と会うのは約五十年ぶり」と話し、再禧さんたちも亡父の昔話を聞くことを楽しみにしている。

記念シンポでは、兵朝研の金慶海さんの講演をはじめ、朴さんの遺族のスピーチ、徐元洙さんら体験者の証言も。徐さん撮影の貴重な写真や事件を報じた「東西日報」などの記事、画報など資料を展示。遺族招致のカンパも呼び掛ける。問い合わせは同センター☎078・851・2760。

一方、大阪では警官隊に射殺された当時十六歳の少年、金太一さんを追悼する集会を、二十五日午前十時から新大阪駅近くのメルパルク大阪郵便貯金会館で開催する。

初公開される朝連阪神支部初代役員。前列中央が朴柱範委員長（一九四五年十一月、徐元洙さん撮影。全員が故人）

多くの犠牲を払い、再開された阪神朝鮮初級学校（当時）の朝礼の様子（一九四九年三月）

98.4.21

朝鮮人弾圧から50年

神戸で23日 市民団体が記念シンポ

戦後まもなく、朝鮮学校の閉鎖をめぐって在日朝鮮人側と連合国軍総司令部（GHQ）、行政側が対立し、占領下で唯一の「非常事態宣言」のもとで多くの朝鮮人が逮捕された「4・24阪神教育闘争」から、今年で五十年になる。市民団体が二十三日、逮捕され仮釈放中に死去した「在日朝鮮人連盟（朝連）」の朴柱範・兵庫県委員長の娘の再禧さんを招いて記念シンポジウムを開き、記念パンフレットも発行する。

阪神教育闘争は一九四八年四月、GHQの意向で県などから立ち退きを命じられた朝鮮学校の存続をめぐり、行政側と朝鮮人側が対立。同月二十四日に両者が県庁で協議した結果、朝鮮学校の閉鎖撤回などが約束された。しかし、GHQが非常事態を宣言し、朴さんら多数の朝鮮人が逮捕された。朴さんは四九年十一月に仮釈放されたが、釈放の直後に病死した。

シンポジウムには再禧さんら遺族三人を招き、兵庫朝鮮関係研究会の金慶海さんが「4・24闘争の意義」と題して講演。再禧さんが、刑務所内の病院に朴さんを訪ねた際の話や当時の闘争の様子などを証言する。朴さんの姿など関連写真二十五点も展示する。

パンフレットは約三十ページ。逮捕された朝鮮人の獄中時や教育闘争の年表、当時の新聞記事などが収録されている。シンポジウムは二十三日午後六時半から、神戸市灘区山田町三丁目の神戸学生青年センター（078・851・2760）で。参加費七百円。

神戸新聞 4/23 '98　(第3種郵便物認可)

あす4・24阪神教育闘争50年

GHQ（連合軍総司令部）の朝鮮学校閉鎖命令に対して兵庫、大阪の朝鮮人たちが激しく抵抗した「4・24阪神教育闘争」から今年で五十年。占領下で唯一、非常事態が宣言され、「神戸事件」とも呼ばれるが、ウリマル（わが言葉）を守ろうとした在日の心意気は民族教育の原点としてあらためて評価され、記念行事や集会が相次いで開かれる。

「ウリマル守る」

民族教育の原点 熱い思い今も

阪神教育闘争を扱ったマダン劇の練習を重ねる在日の若者たち＝神戸市長田区西尻池町

朝鮮学校

閉鎖命令に憤り爆発

マダン劇上演やシンポ開催へ

事件が起きたのは、一九四八（昭和二十三）年四月二十四日。学校閉鎖に反発し、県庁を取り囲んだ朝鮮人たちが知事室にもなだれ込み、岸田知事らから閉鎖命令撤回の覚書をとりつけた。しかし翌朝までに非常事態宣言が神戸に発令され、撤回は無効に。朝鮮人約千七百人が夜間に次々逮捕された。

＊　＊

「私らが朝鮮人として生きることが、そんなに悪いんか」

学校閉鎖を迫るGHQに母親らが憤りを爆発させる。二十六日午後一時五十分、神戸市立長田南小学校（旧神楽小）で上演されるマダン劇の一場面。今年で九回目になる祭り「長田マダン」のメーン行事として、在日二、三世の若者らが教育闘争を題材にした劇の練習を重ねてきた。

実行委員長の康良樹さん(三二)は「今は民族の文化に触れる機会が少なく、当時の同胞が何のため頑張ったのか知ることは意義がある。言葉や文化に対する一世たちの思いを表現したい」と話す。

二十三日午後六時半、神戸市灘区山田町の神戸学生・青年センターで市民グループが開く記念シンポジウムには、当時、在日朝鮮人連盟（朝連）兵庫県本部委員長だった朴柱範さんの遺族が韓国から招かれる。柱範さんは七カ月後の仮釈放直後に病死。同胞に慕われた柱範さんの葬列を見送る人波は長田区から芦屋市まで続いたという。二十二日に来日した次女の再禧さん(七七)は「遺骨を抱えて帰国した時の悲しみは忘れられない」と語った。

シンポで講演する兵庫朝鮮関係研究会の金慶海さん(五九)は「学校はウリマルを守るためあった。ウリマルを再び取り上げられたくないという切実な思いが闘いを支えた」としている。

＊　＊

日弁連は今年二月、国内の民族学校に関する大学受験資格や学校振興助成などでの差別是正を日本政府に勧告した。

その民族学校の一つ、東神戸朝鮮初中級学校（神戸市中央区脇浜町）で二十五日午後一時半、朝鮮総連系の教育団体や日本人有志でつくる実行委主催の記念シンポジウムが開かれる。勧告の作成に携わった鈴木孝雄弁護士や、阪神教育闘争を経験した元教員の高泰淀さん(七三)らが民族教育の現状と課題を検証する。実行委員長の安致源さん(六二)は「民族の自主権と尊厳を守る運動だった。それは、国際化時代の今も大事なことに変わらない」と話す。

同じく二十五日午後一時、大阪市北区のメルパルクホールで市民グループが開く記念集会も、テーマは「真の共生社会は民族教育の保障から―」。李清一・在日韓国基督教会館館長や作家の若一光司さんらが共生社会に向けて阪神教育闘争の教訓を探る。

新社会 98.5/26

阪神教育闘争から50年

在日朝鮮人の歴史的闘いに学ぶ

民族教育の発展へ決意

第二次世界大戦の日本の敗北で朝鮮は植民地支配から解放され、日本に住んでいた大勢の朝鮮人たちは解放された祖国へ帰った。その中で五〇万とも六〇万ともいわれる朝鮮人は日本に残った。解放により彼らが、日本の植民地支配が強制した皇民化政策の中で不当に奪われた民族性を回復したいという強い願望を抱き、まっさきに在日の子どもたちに朝鮮の言葉や文字、歴史や地理を学びとらせる民族教育を求めたのはごく当然の成り行きであった。オモニ・アボジの熱意で最盛期の一九四八年四月には、全国で六万人を超える子どもが六百の朝鮮学校に通ったといわれる。そして、当時この民族教育のまわりに結集した圧倒的に多くの在日朝鮮人たちは、三八度線で南北に分断支配されている祖国の統一を主張し運動する在日朝鮮人連盟(朝連)との結びつきが強く、朝鮮学校はその大衆的基盤であった。

一九四八年一月六日、アメリカ陸軍長官ロイヤルは「日本を極東における全体主義の防壁に」と演説してアメリカ政府の対日政策は転換を告げ、日本は急速にアメリカの反共の防波堤に仕立てられていく。いっぽう朝鮮半島では、統一をねがう広範な民衆の期待を踏みにじって分断支配を固定化する、南だけの単独選挙が強行され、国内には緊張の糸が張り詰めていた。(四月三日には済州島で単独選挙に反対する民衆の蜂起が起こる)

こうした情勢を背景にGHQはしだいに朝連とその基盤である朝鮮学校(民族教育)への弾圧を強め、朝鮮学校の閉鎖を指令するにいたる。文部省は四八年一月、三月をもって全ての朝鮮学校を閉鎖するよう朝連と各朝鮮人学校へ通達した。在日の血と汗でつくりあげてきた民族学校の閉鎖はとうてい容認できるものではなく、当然のように在日朝鮮人による民族教育を守るための教育闘争が全国に澎湃としてわき起こってきた。この教育闘争が最も熾烈にたたかわれたのが神戸・大阪。阪神教育闘争であった。

阪神教育闘争といえば、大阪・大手前公園の集会に襲いかかった日本の官憲によって金太一少年(当時十六歳)が射殺されたのが五〇年前の四月二六日であり、人びとの記憶にいまも鮮明だ。しかし神戸の教育闘争も熾烈をきわめ、三・一独立運動記念の集会から連日のように朝鮮学校閉鎖反対の大衆的な陳情行動が開始され、激しい戦いとなっていく。四月一四日には県知事に面会を求めた人たちが不退去罪で逮捕され闘いの火に油を注ぎ、米軍MPの介入をはねのけた四月二四日の知事との交渉でやっと朝鮮人学校への閉鎖命令を撤回させるという成果を上げることができた(のちにこの四月二四日が阪神教育闘争の記念日とされた。)だが知事が閉鎖命令を撤回したその夜、アメリカ軍が日本占領期間でただ一度だけ発動した非常事態が神戸に宣言され、朝連への弾圧。朝連兵庫県本部委員長・朴柱範はじめ千数百人の朝鮮人・日本人が検挙され、軍事裁判にかけられることになる。

こうした経過をたどって全国に高揚した闘いによって五月五日、朝連・文部省の間に覚書が成立し条件つきで朝鮮人学校の存続が認められ、教育闘争は収束を見ることになる。

ことしは阪神教育闘争から五〇周年。五〇年前の闘いと歴史を忘れまいと、神戸で二つの記念シンポジウムが開催された。

ひとつは四月二三日、神戸学生青年センター。この集会は、五〇年前の「阪神教育闘争とは何であったのか」をテーマに、金慶海氏の「四・二四教育闘争の意義」と題する講演のほか、三人の当事者による証言が行われた。一人は当時兵庫新聞社の記者として事件の取材にあたっていた宮左純氏。一人は当時民青(在日本朝鮮民主青年同盟)役員で、教育闘争にかかわるA級B級軍事裁判のただ一人の生き残り、鄭敬斗氏。そしてこの集会のために韓国から参加した朴柱範の次女・朴再福氏。

鄭氏は四八年四月一四日知事室座り込みでの自身の逮捕投獄、一連の闘いの過程、朴柱範の人民葬の様子などをつぶさに証言。朴氏は、教育闘争の頃は出産で韓国に帰っていて何も知らされていなかったが、大久保刑務所に父を迎えに行き、釈放四日後に事実上獄死した父の遺骨を朝鮮戦争勃発直前の故郷にもって帰ったこと、埋めておいた遺骨や遺影が戦争の混乱の中で掘り返されなくなってしまったことなどを証言した。

もう一つのシンポジウムは四月二五日、東神戸朝鮮初中級学校で行われた。この集会は五〇年前の教育闘争の上に立って、いかに今日の民族教育の権利を発展保障させていくかに焦点がすえられていた。

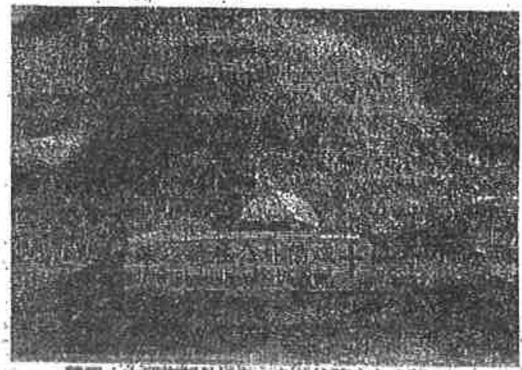
朝鮮大学校・朴三石助教授の講演のあと記念シンポジウムが行われ、子どもを朝鮮学校に通わせる親の実態や地域でそれらを支える運動の紹介とともに、昨年日弁連がまとめた在日朝鮮人の入学資格などに関する調査報告書をもとにことし二月政府に提出した「勧告書」について議論が行われ、高い評価が与えられた。

毎日新聞　98年12月24日

民族の生活向上に尽力

「阪神教育闘争」指導者・朴さんの人物像明らかに

大阪、兵庫の在日朝鮮人が、民族学校の閉鎖令に抵抗して繰り広げた「阪神教育闘争」から来年で半世紀を迎えるが、その指導者、朴柱範（パクチュボム）さんの不明だった人物像が、11月に行われた韓国在住の遺族への聞き取り調査で、初めて明らかになった。朴さんは闘争で逮捕され、翌年に仮釈放されたが、釈放4時間後に衰弱死している。当時、在日朝鮮人はGHQなどの厳しい監視下にあり、朴さんについて語ることができない状況が続いていた。以後も、朝鮮戦争（1950年）など在日韓国・朝鮮人を取り巻く環境は混乱し、朴さんに関する資料は失われていた。



韓国・大邱市郊外にあった朴柱範さんの墓　＝飛田雄一さん撮影

再評価に聞き取り調査
――韓国大邱市訪れ飛田雄一さん

神戸学生青年センター（神戸市灘区山田町）館長の飛田雄一さん(47)らが4年前、神戸市で在日韓国・朝鮮人の古老から朴さんの遺族の消息を聞き、調査を計画。震災で中断したが、来年、闘争半世紀の節目を迎えるに当たり、朴さんの再評価が必要と飛田さんが訪韓し、韓国・大邱市に住む朴さんのおい、朴南爾さんらから聞き取り調査した。

それによると、朴さんは1885年、韓国慶尚北道義城郡舎谷面稽上洞で生まれた。1927年に来日。兵庫県武庫郡本山村（現神戸市東灘区）で朝鮮人労働者の飯場を開設。教会を開き、朝鮮人への布教活動も行っていた。

33年、生活必需品の共同購入などを通じ、在日朝鮮人の困窮した生活を救う阪神消費組合の活動に参加。その利益で、朝鮮語などを教える民族学校を建設しては、皇民化政策に逆行すると政府に閉校させられた。30年代には、本庄村（現東灘区）の村議会議員を2期務め、朝鮮人の地位向上に尽くした。

終戦後の45年秋、朝鮮人連盟阪神支部委員長に就任。47年、同県本部委員長となり、県内各地で民族学校を設立した。朝鮮人の権利を訴え、阪神教育闘争に突入したが、兵庫県庁を取り巻く1万人集会の後、GHQが非常事態宣言を発令。数日内に1700人以上もの朝鮮人が逮捕された。朴さんも逮捕され、軍事裁判で5年程度の懲役刑を受けたが、体調を崩して1年で仮釈放、直後の49年11月26日、死亡した。

関係者による葬儀は行われたが、その後、公の場で語り継ぐことはできない状況が続いたという。

【戸田　栄】

阪神教育闘争　1948年までに、日本各地で約600校の朝鮮人学校が運営され、約6万人の生徒・児童が就学していた。これに対し、文部省は同年、民族学校を正規の学校とは認めない通達をGHQの支持を受けて出し、抗議運動が多発した。特に大阪、神戸では激しく抵抗し、阪神教育闘争と呼ばれた。大阪では同年4月、府庁前の3万人集会に絡み、警察が発砲して少年が死亡している。

官製朝鮮学校 沿革史を発見

明石朝鮮初級学校（明石市立石１）の前身が、1949年の日本政府による朝鮮学校閉鎖令で明石市立林小学校・船上分校とされた15年間を記録した学校沿革史が、５日までに同市内で見つかった。いわば「官製朝鮮学校」の記録で、日本当局とのあつれきを示した生々しい記述もある。閉鎖令で公立学校の分校とされた朝鮮学校の沿革史は、全国的にも珍しいという。（坂本　勝）

明石・元教員が保存

当局とのあつれき鮮明

沿革史は予算、職員組織や学級編成、児童数の変遷などを記した資料で、一部に行事、出来事の記述がある。同市内の元教員（六七）が、関係者から譲り受け保存していた。

それによると、同分校は、市と明石朝鮮人小学校育友会の覚書を基に「明石市及び近住朝鮮人学童の希望者を収容」し、五一年に創立。朝鮮人の講師二人以外は、校長をはじめ七人の教師が日本人だった。五六年度に最多の百九十人が在籍。閉校前の六五年度は八十七人に減った。

日本側との摩擦を示す記述もある。

「夕方明石市警六十名程容疑者捜索に来校したため市警と朝鮮人との間に闘争を起こす」（五一年九月八日）。「衣笠学務課長視察に来校用談中高学年児童多数が課長を取囲み種々の要求を出し即答を求め約三時間吊上げる」（五二年六月二十四日）―。

■船上分校 学校沿革史より抜粋■

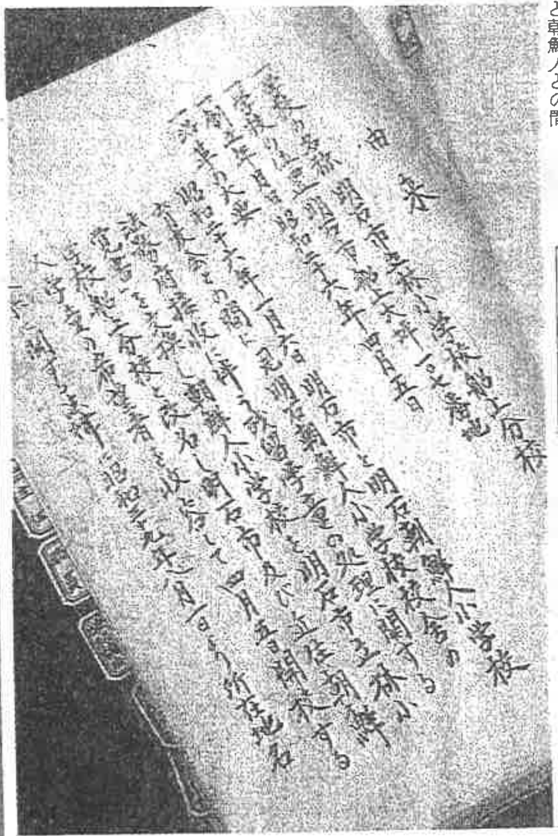
1951年６月24日	校庭で明石市在住朝鮮人親睦運動会
9月８日	夕方明石市市警60名程容疑者捜索に来校したため市警と朝鮮人との間に闘争
52年６月24日	学務課長視察、児童多数が課長を取囲み種々の要求を出し約３時間吊上げる
53年10月19日	県下朝鮮人学校連合体育会に４年生以上参加
54年９月26日	15号台風のため被害を受けた屋根約80坪めくられ、板塀全壊
56年度	最多の児童190人が在籍
60年７月９日	東京より朝総連映画技師学習状況撮影に来校
63年９月17日	電話架設
65年６月16日	文部省学力調査実施（第５、６学年）

戦後、民族教育復活の歴史

五五年に在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）が結成され、民族教育の自主性を守る運動を展開。六六年四月、同分校も自主学校の認可を得て、明石朝鮮初級学校として復活した。

五八年に分校を卒業した朝鮮総連明石支部の金南圭常任顧問（六〇）は「ツベルクリンの予防接種が分校には来ず、本校まで行った。民族教育を守るため、一世たちが闘ったから、今の朝鮮学校がある」と振り返る。

「在日朝鮮人民族教育の原点」などの著書がある兵庫朝鮮関係研究会の金慶海さん（六八）は「民族教育を守ろうとした軌跡を示す貴重な資料」と話している。

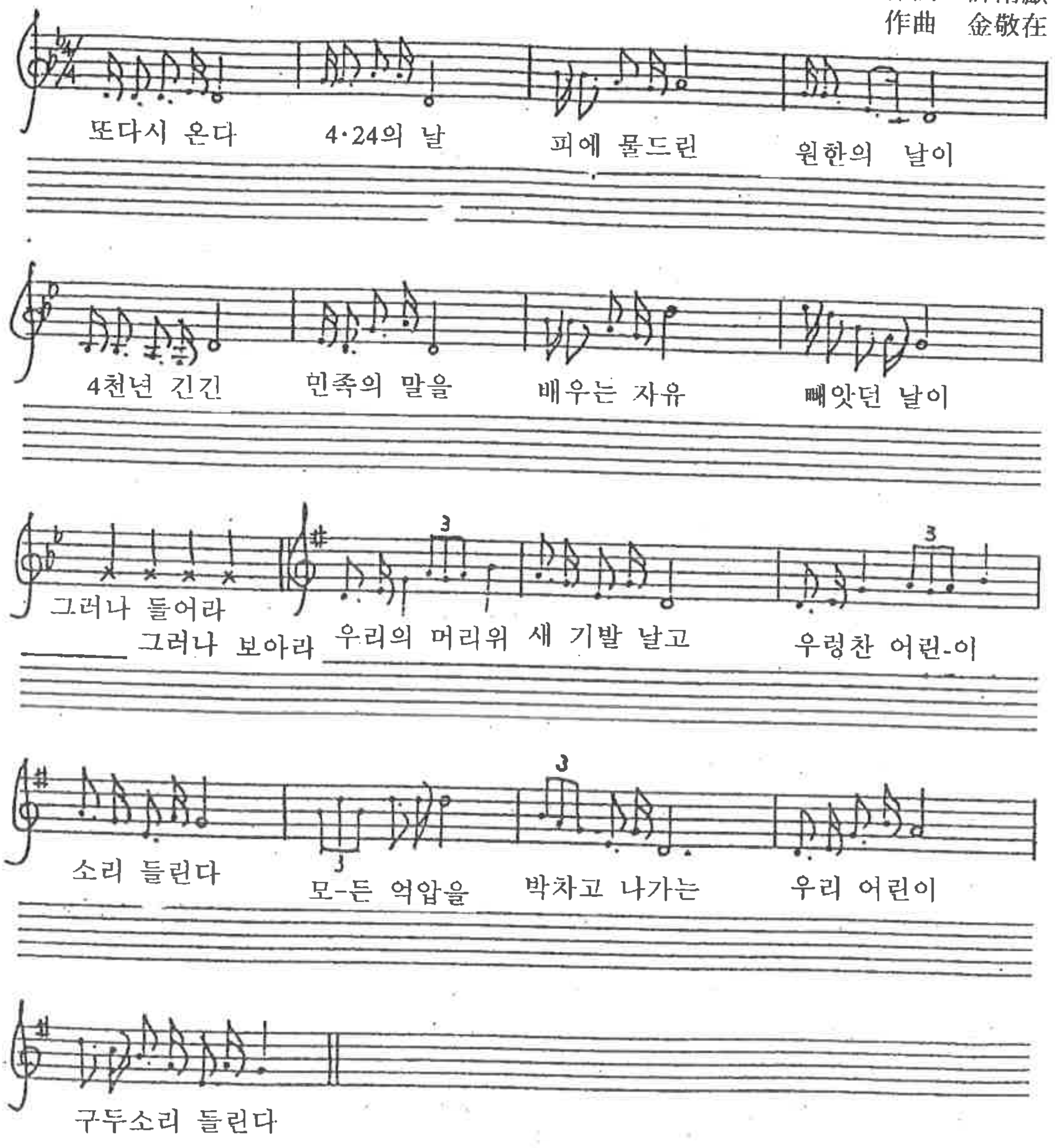


見つかった明石市立林小学校船上分校の学校沿革史

神戸新聞
発行所 神戸新聞社
神戸市中央区東川崎町１－５－７
郵便番号 650-8571
©神戸新聞社 2006年
電話（078）362局
読者センター 7056
広報部 7025
社会部 7040　写真部 7047
経済部 7094　販売局 7066
運動部 7095　広告局 7081
文化生活部 7044 7045　地域活動局 7088
神戸新聞ホームページ http://www.kobe-np.co.jp/
神戸新聞グループモバイル http://mkobe.jp
購読のお申し込み 0120・168・349 0120・232・776

4.24의 노래

作詞　許南麒
作曲　金敬在



또다시 온다 4·24의 날
피에 물드린 원한의 날이
4천년 긴긴 민족의 말을
배우는 자유 빼앗던 날이

그러나 들어라! 그러나 보아라!
우리의 머리위 새 기발 날고
우렁찬 어린이 소리 들린다
모든 억압을 박차고 나가는
우리 어린이
구두소리 들린다

再び迎える4·24
血に染まった怨みの日
４千年悠久の民族の言葉
学ぶ自由　奪われたその日を

しかし聞け！しかし見よ！
頭上になびく新しい旗
声高らかな雄々しい子ら
抑圧を蹴って進みゆく
雄々しい子らの
高らかな足音を聞け

（金慶海訳）

※この歌は金慶海氏の記憶によって復元したものです。完全な譜面と歌詞の資料をお持ちの方は、提供していただければ幸いです。

「４・２４記念碑を建てる会」準備会

〒657-0064　神戸市灘区山田町3-3-1（財）神戸学生青年センター内
事務局／池田　宜弘（090-8539-0473）・朴　昌　利（090-6371-6352）